

「地域活動指導等研修会」事業報告

1 事業名 令和3年度「地域活動指導員等研修会」

2 期 日 令和3年10月14日（木）

3 参加者 27名

4 日 程

時 程	研 修 内 容
12:40	
13:00	受 付
13:10	開 会 行 事
13:40	研修1〈講義〉 「人権が尊重される社会を目指して ～どの子どもも楽しく参加できる人権を大切にしたい指導の在り方～」 筑豊教育事務所 人権・同和教育室 社会教育主事 野田 大樹
13:50	研修2〈講話・演習〉 「やってみよう遊びリンピック」 国立夜須高原青少年自然の家 事業推進室長 白土 智章 氏 国立夜須高原青少年自然の家 事業推進専門職 中村 匡寛 氏
15:10	閉 会 行 事
15:20	

5 活動の実際

研修1

(1) 内容

研修1では、「人権が尊重される社会を目指して」と題して、当事務所人権・同和教育室の野田社会教育主事が講義を行いました。最初に、「子どもたちに活動内容を説明する場面」を提示して、参加者にすべての子どもたちが楽しく参加できる活動にするために必要なことを考えてもらいました。次に、「性の多様性」「アンコンシャスバイアス」「マイクロアグレッション」の内容について理解していただき、指導者自身が人権に関する知的理解と豊かな人権感覚をもっていなければ、無意識のうちに子どもたちを傷つけてしまうことがあることを再認識していただきました。最後に、北九州市人権推進センターのラジオ番組「明日への伝言板」で放送された筑豊地区の中学生の作文を提示して、子どもたちが安心して活動できる環境づくりについてお願いをしました。

野田社会教育主事の「体験活動の指導者の発言や態度も環境の一つです。」という言葉を受けて、参加者から「自分の言動に今一度注意し、子ども達に接していきたいと思いました。」と感想を聞くことができました。研修1では、指導者自身が人権について学ぶことの大切さを実感し、人権が大切にされた環境の中で子どもたちが学ぶことで、人権感覚が育っていくことについて理解を深めることができました。



アンコンシャスバイアスについて説明

2 どの子も楽しく参加できる活動にするために

問題点

- 発言する側に明確な悪意がないため、人を傷つけている自覚がないこと
- 受け取る側に、気になる人と気にならない人がいるため、発言する側が問題に気づきにくく、差別や偏見が継続しやすいこと

問題点を再確認

(2) 参加者の声

- アンコンシャスバイアスは常に意識していかなければならないなと思いました。
- 当たり前だと思っている事は当たり前ではないという言葉がすごく心に残りました。

研修2

(1) 内容

研修2では、「やってみよう遊びリンピック」と題して、国立夜須高原青少年自然の家事業推進室の白土智章室長と中村匡寛専門職が講話と演習を行いました。最初に、「遊びリンピック」について知っていただくために、実際に「お箸で豆運び」等を体験していただきました。参加者は、わかりやすいルール、順位を競う楽しさなどを実感することができました。次に、種目（遊び）を企画・立案をするために必要なポイントについて説明をしていただき、1人5つの種目（遊び）を考える活動を行いました。体験で実感したことをもとに、種目（遊び）を企画することができました。最後に、グループ交流の中で、企画した種目（遊び）を説明し共有することで、さらに実践できる種目（遊び）の数が増え、企画した種目（遊び）を使ってみようと考えている参加者も数多くいました。



遊びリンピック（お箸で豆運び）を体験する参加者



企画した種目（遊び）で交流する参加者

(2) 参加者の声

- 身の回りにあるものを使って簡単なゲームを考えることができることに気がつきました。
- 土曜サークル事業など、小学生を対象にした事業があるので実際に実践できると思いました。

6 全体をとおして

今回の研修会の目的は、地域活動指導員や体験活動の指導者を対象に、講義、演習をとおして、指導者として必要な人権感覚やすべての子どもたちが楽しく参加できるレクリエーション指導について学び、地域活動指導員や体験活動の指導者としての資質・能力を高めることでした。参加者からは、「研修を受けるたびに新しい言葉を知識として知り、自分の日々の言動をふりかえる事ができるとてもいい機会をいただけていると感じました。」「自分たちで遊びリンピックの企画プレゼンを行い、交流したことで、いろんな遊びのアイデアを頂きました。」などの感想があり、地域活動指導員や体験活動の指導者としての資質・能力を高める研修となりました。また、遊びリンピックの体験や企画・立案を通して、種目（遊び）を考えることができ、今後の業務の幅を広げることもできました。